TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　485語

# Why the Wren flies Close to the Earth

## ミソサザイはなぜひくくとぶ

Florence Holbrook（1902年の本）　**原文そのまま**　朗読：Alex

人の声の朗読
を聞く・Web版

**どんなおはなし？**　人間のまねをして王さまをきめることにした鳥たち。いちばん高くとんだ鳥が王さまです。小さなミソサザイには、とっておきの作戦があって……。



One day when the birds were all together, one of them said, "I have been watching men, and I saw that they had a king. Let us too have a king."

"Why?" asked the others.

"Oh, I do not know, but men have one."

"Which bird shall it be? How shall we choose a king?"

"Let us choose the bird that flies farthest," said one.

"No, the bird that flies most swiftly."

"The most beautiful bird."

"The bird that sings best."

"The strongest bird."

The owl sat a little way off on a great oak-tree. He said nothing, but he looked so wise that all the birds cried, "Let us ask the owl to choose for us."

"The bird that flies highest should be our king," said the owl with a wiser look than before, and the others said, "Yes, we will choose the bird that flies highest."

The wren is very small, but she cried even more eagerly than the others, "Let us choose the bird that flies highest," for she said to herself, "They think the owl is wise, but I am wiser than he, and I know which bird can fly highest."

Then the birds tried their wings. They flew high, high up above the earth, but one by one they had to come back to their homes. It was soon seen which could fly highest, for when all the others had come back, there was the eagle rising higher and higher.

"The eagle is our king," cried the birds on the earth, and the eagle gave a loud cry of happiness. But look! A little bird had been hidden in the feathers on the eagle's back, and when the eagle had gone as high as he could, the wren flew up from his back still higher.

"Now which bird is king?" cried the wren. "The one that flew highest should be king, and I flew highest."

The eagle was angry, but not a word did he say, and the two birds came down to the earth together.

"I am the king," said the wren, "for I flew higher than the eagle." The other birds did not know which of the two to choose. At last they went to the oak-tree and asked the owl. He looked to the east, the west, the south, and the north, and then he said, "The wren did not fly at all, for she was carried on the eagle's back. The eagle is king, for he not only flew highest, but carried the wren on his back."

"Good, good!" cried the other birds. "The owl is the wisest bird that flies. We will do as he says, and the eagle shall be our king." The wren crept away. She thought she was wise before, but now she is really wise, for she always flies close to the earth, and never tries to do what she cannot.

ある日、鳥たちがみんな集まっていたとき、1羽が言いました。「人間をずっと見ていたら、人間には王さまがいるんだ。わたしたちも王さまをきめようよ。」

「どうして？」とほかの鳥たちはききました。

「さあ、わからないけど、人間にはいるんだもの。」

「どの鳥を王さまにする？どうやって王さまをきめよう？」

「いちばん遠くまでとべる鳥にしよう」と1羽が言いました。

「いや、いちばん速くとべる鳥だ。」

「いちばん美しい鳥よ。」

「いちばん歌がじょうずな鳥だよ。」

「いちばん強い鳥さ。」

フクロウは少しはなれた大きなカシの木にとまっていました。フクロウは何も言いませんでしたが、とてもかしこそうに見えたので、鳥たちはみんな「フクロウにきめてもらおう」とさけびました。

「いちばん高くとべる鳥を王さまにするのがよい」とフクロウはさっきよりもっとかしこそうな顔をして言いました。するとほかの鳥たちも「そうだ、いちばん高くとべる鳥にしよう」と言いました。

ミソサザイはとても小さな鳥ですが、ほかのだれよりもはりきって「いちばん高くとべる鳥にしよう」とさけびました。ミソサザイは心の中でこう思っていたのです。「みんなはフクロウがかしこいと思っているけど、わたしのほうがもっとかしこいわ。どの鳥がいちばん高くとべるか、わたしは知っているもの。」

それから鳥たちは、はねをためしました。鳥たちは地上から高く高くとびあがりましたが、1羽、また1羽と、家へもどってこなければなりませんでした。どの鳥がいちばん高くとべるかは、すぐにわかりました。ほかの鳥がみんなもどってきても、ワシだけが、どんどん高くのぼっていたのです。

「ワシがわたしたちの王さまだ」と地上の鳥たちはさけび、ワシはうれしくて大きな声でなきました。ところが、見てください！1羽の小さな鳥がワシの背中の羽の中にかくれていて、ワシがせいいっぱい高くのぼったところで、ミソサザイがその背中からさらに高くとびあがったのです。

「さあ、どの鳥が王さま？」とミソサザイはさけびました。「いちばん高くとんだ鳥が王さまなんでしょう。いちばん高くとんだのはわたしよ。」

ワシはおこりましたが、ひとことも言いませんでした。そして2羽はいっしょに地上へおりてきました。

「わたしが王さまよ」とミソサザイは言いました。「ワシより高くとんだんだもの。」ほかの鳥たちは、2羽のうちどちらにすればいいのかわかりませんでした。とうとう鳥たちはカシの木へ行って、フクロウにききました。フクロウは東を見て、西を見て、南を見て、北を見て、それから言いました。「ミソサザイはまっ

たくとんでいない。ワシの背中にのせてもらっていたのだから。王さまはワシだ。いちばん高くとんだだけでなく、ミソサザイを背中にのせていたのだから。」

「そうだ、そうだ！」とほかの鳥たちはさけびました。「フクロウは空をとぶ鳥の中でいちばんかしこい。フクロウの言うとおりにしよう。ワシをわたしたちの王さまにしよう。」ミソサザイはこそこそとにげていきました。ミソサザイは前は自分をかしこいと思っていましたが、今はほんとうにかしこくなりました。いつも地面の近くをとんで、できないことをしようとはけっしてしないからです。

## たんご と クイズ　ミソサザイはなぜひくくとぶ

| | | |
|---|---|---|
| **king** 王さま | **owl** フクロウ | **oak-tree** カシの木 |
| **wren** ミソサザイ | **wings** つばさ | **eagle** ワシ |
| **feathers** 羽 | **highest** いちばん高く | |

**Q1** どんな鳥を王さまにすることになった？

① いちばん高くとべる鳥　② いちばん美しい鳥　③ いちばん歌がじょうずな鳥

**Q2** ミソサザイはどこにかくれていた？

① カシの木の上　② フクロウのつばさの下　③ ワシの背中の羽の中

**Q3** さいごに王さまになったのはだれ？

① ミソサザイ　② ワシ　③ フクロウ

**こたえ**

Q1 ①　フクロウが「いちばん高くとべる鳥を王さまにするのがよい」と言い、みんなそれにさんせいしました。

Q2 ③　ミソサザイはワシの背中の羽の中にかくれていて、ワシがいちばん高くのぼったところでとびあがりました。

Q3 ②　フクロウが、ミソサザイはのせてもらっただけだと言い、みんなはワシを王さまにきめました。

**原田英語の多読ベストジュニア**

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

**出典**　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Alex（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。